



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

ROTARY: MANKIND IS OUR BUSINESS

「ロータリー：人類が私たちの仕事」

2001～2002年度・国際ロータリーテーマ／リチャード D.キング会長

「ロータリーの心を伝えようー家庭に、職場に、地域にー」

2001～2002年度・東京新南ロータリークラブテーマ／大日方 真会長

本日の例会 2002年6月28日 第752回例会

夜間例会・打上げ会

例会 (18:00～18:30)

「退任のご挨拶」会長 大日方 真君

副会長 谷村 義雄君

幹事 新保 國彦君

打上げ会 (18:30～20:30)

退任のご挨拶

会長 大日方 真

この1年、私は、いろいろな仲間にロータリーを語ってきました。職場でロータリーバッジをつけていると、若い社員からバッジについて聞かれることがあり、ロータリーを語る機会が生まれます。会社の役員や私の秘書は、ロータリー活動に多くの時間を費やしている姿を批判的に見ていたかも知れません。友人たちにも、ロータリアンであることを名乗って、全日空ホテルが例会場なので毎週末来ますとか、この会場でよくロータリーの催しがありますとか、心に残った卓話や奉仕活動も話題にしました。卓話や奉仕活動については家庭でも時々話しました。これが今年度のクラブテーマ「ロータリーの心を伝えよう。家庭に、職場に、地域に」の私のささやかな実践でした。

しかし、クラブの中では、ロータリーを語る機会が少なかった。火曜会や新入会員対象の催し、クラブフォーラムやセミナーなど、いろいろな活動がありましたが、ロータリーをテーマにして自由に語り合い、議論し合うことはなかなか出来ない。クラブを活性化するには、本音で語り合い、ロータリーの理解を深め、ロータリー活動に参加することの意義を確信することが大切だと思います。私にとっては、ロータリー活動がこれからの人生を美しく生きる拠り所になると思っています。

21世紀の初年度であったこの1年、15周年行事への取り組みは思い出に残りました。これからのロータリーを考えるクラブフォーラム、ホームページの立ち上げ、盲導犬との触れ合い、盲導犬新南4号の寄付、記念誌の発行、なごやかに行われた忘年家族会。いまでもさわやかな余韻が残っています。日本経済の深刻な低迷によって、クラブの活動は影響を受けてきました。退会を余儀なくされたり、例会に出席出来ない会員もいました。しかし、様々な活動を地道に続けてきました。皆さんと共に充実した1年を過ごすことが出来ました。心から感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。

副会長 谷村 義雄

思いがけず副会長という重い職を仰せつかって、一体、副会長とはどのような任務なのかと自問しました。まず、会長の補佐（しかし、これは幹事さんが）と、クラブ奉仕委員長として各委員会の監督、調整する任務（ロータリー細則に定める）、そして理事としてクラブの重要案件の処理など担当をすることと理解しまして、私なりに懸命に勉めて参りました。

一年の任期を終わろうとする今、省みますと、会長は明敏でリーダーシップも際立ち、私の補佐など、ただ一回の例会の代役をしたに過ぎません。クラブ奉仕の方は各委員会が年度計画を着々と遂行され、私の出番は殆どありませんでした。まことにご苦勞様でした。理事会も一度も欠席せず、各理事のご意見を聴くのみでしたが、粛々と案件を処理されることにクラブ運営の健全さを体験しました。

以上の次第にて、無為無策でありましたが、大過なく終わらせて頂きましたことを、改めて感謝します。

幹事 新保 國彦

大日方会長が「ロータリーの心を伝えようー家庭に・職場に地域に」と提唱された本年度も本日の例会をもって、一年間の幕を閉じるわけです。一昨年12月に幹事に選任頂いてから、早くも1年7ヶ月が過ぎ、この間、大日方会長、谷村副会長、理事、役員の皆様、各委員長、副委員長、委員の皆様から頂いた、ご指導、ご鞭撻に心から感謝申し上げます。有難うございました。

幹事として、会長、副会長の補佐役が十分に出来ただろうか、各委員会とのパイプ役が十分に出来ただろうか、深く反省すると共に、貴重な体験をさせて頂きました。

クラブ運営を行っていく中で、会員の皆さんの価値観、人間性、クラブに対しての思い入れ等、個々の考え方があり、その調整は難しいものだ、実感いたしました。皆様方がそれぞれのお立場で奉仕の精神を発揮して頂いており、委員会活動が成り立っていることが良くわかりました。

本年度は、クラブ創立15周年の節目に当たり、記念フォーラム「新世紀を迎えて、当クラブの今後10年の連帯意識・活性化をどう実現するか。」・・・皆で創ろう新南・・・であり、15年史に集約されております。全会員が一つになってテーマに取り組み検討を重ねていく中で、クラブの自主性・協調性、強い連帯感が生じ、益々、クラブへの愛着心を深める事が出来たと思いますが、多くの課題が残された事も事実であります。

最後に、会員の皆様、そして事務局の山中さんの暖かいご支援があったからこそ、私の様なものでも幹事が務まったと深く感謝し、梶内前幹事よりお預かりした「タスキ」を吉岡次期幹事にお渡しし、次年度のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

一年間お世話になり、誠にありがとうございました。

◎卓話

「点字図書館とボランティア」

社会福祉法人東京ヘレン・ケラー協会
点字図書館長
藤元 節氏



◎出席委員会(高須委員長)

5月の出席率平均は78.8%でした。メイキャップをする会員が少ないようです。

◎次年度親睦委員会(福島委員長)

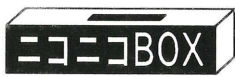
次年度第1回目の火曜会が、7月2日(火)に6時より、37階アストラルにて開催されます、皆さんお誘い合わせて、おいでください。

◎慶事披露

誕生日祝い／川鍋二郎君(6月21日)、山根一剛君(6月25日)
100%出席祝い／加藤昌明君(12年)

◎出席報告

会員68名／出席41名・欠席27名(出席規定免除者10名)
ビジター3名、ゲスト1名(米山奨学生・党 偉栄さん)



ニコニコBOX

6月21日／7件23,000円

2001～2002年度累計1,599,000円

多額の御寄付を有難うございました。

山根一剛／誕生日祝い有難うございます。65歳です。尾上寛／休みが多いです、反省してます。藤後幸生／清原委員長はじめ皆様大変申し訳ありませんでした。3月8日に入会以来、親睦活動委員会のメンバーである事を認識していませんでした。ニコニコではなく情けない気持ちで一杯です。本当に申し訳ありませんでした。河原勢自／少々ご無沙汰しております、加藤先生ニコニコご苦勞様。馬場一廣／暑くなって参りました。岸義武／加藤さんニコニコご苦勞様です。加藤昌明／ニコニコ担当です。

お知らせ

「ガバナー月信」特集号が、公開されております。
是非2750地区ホームページにアクセスして、ご覧下さい。

<http://www.ri2750.org>

ロータリーレート変更

7月1日から1ドル126円(現行130円)に変更

次週予告 2002年7月5日 第753回例会

「就任のご挨拶」

2002～2003年度 会長 吉田 用親君
2002～2003年度 副会長 小杉 修造君
2002～2003年度 幹事 吉岡 琢磨君

座右の銘と四つのテスト

私が当クラブに入会してから、早や16年になろうとしている。今年3月の岸義武君のイニシエーションスピーチ、「さよならお鍋」は、私が聞いたイニシエーションの中で最も感動したスピーチであった。彼のロータリーへの入会の動機は、「多くの方々からの親切に対する恩返しを、社会奉仕という形で出来たら」ということで、誠に素晴らしいものであった。

一方、私の入会の動機は親父から、「勉強になるから、そろそろ入ったらどうか」と言われ、色々理屈をつけて、「いやだ」と言ったら、「親の言うことは聞いとけ」の一言で、親孝行のつもりで入会させていただいた次第。ただその折、親父のアドバイスとして、「ロータリーは、一生の付き合いだから、その内、本当の姿が出てくる。カッコウをつけず、ありのままで。」と言われた。私は、座右の銘として「虚飾は時間に勝てない。」という山本七兵衛さんの言葉をモットーとしていたので、「望むところです。」ということで、ロータリー生活が始まった。

当初は、ロータリーがよく分からず、ロータリーソングの「我等の生業」を歌う時、仲の良かった宮本正祥さんと、「我等のナレアイの間違いじゃないか？」と、腹を抱えて笑いあった。今でもこの歌を歌うと、オカシサが込み上げてくる。現在でも決して高いとは云えないが、誠にレベルの低いロータリアンであった。

「職業奉仕」の概念は難解であったが、しばらくする内にロータリーは、「親睦」と「奉仕」で成り立っている、ということが理解できて来た。職業奉仕については、河原先輩の指導よろしきを得て理解できるようになったが、この職業奉仕を実践する上で良く使われるのが、「四つのテスト」である。この四つの中で私が最も大切だと感じているのが、「真実かどうか」という言葉である。先にも少し触れたが、私の座右の銘が「虚飾は時間に勝てない」であった。嘘やゴマカシは、時間的長短はあるが、必ず、バケの皮が剥れる。どんなに美辞麗句で飾っても、実体のない言葉はどこかで判ってしまうし、すぐに壊れる製品や時間に耐えられない商品を販売するとクレームで返ってくるか、売れなくなってしまふ。短期的な考え方や、利益の追求をすると、後でホゾをかむ。誠にわずかな人生経験ではあったが、私自身、この言葉を肝に銘じるまでは、実に数多くの失敗を重ねて来た。

また、ロータリーに入る前までは、「虚飾」に相對するものとして、「実体」とか、「長期的視点」といった考え方をしていたが、最近では、「真実」という言葉が、正に「虚飾」に相對する言葉と考え、「真実かどうか」を普段の生活の上でも、会社経営の上でも、全ての判断基準にしている。今後のロータリーライフの中でもそうしていきたいと思っているが、「真実かどうか」考え出すと、結論を出すのが遅くなる点が難点かも知れない。

本号で本年度クラブ会報委員会の活動は終了しました。
1年間のご愛読、ご支援、ご協力に心より感謝致します。

クラブ会報委員長 小杉 眞史
副委員長 圓谷 正和
副委員長 本嶋 公民

東京新南ロータリークラブ [http://www.h3.dion.ne.jp/~newsouth]

〔会長〕大日方真 〔副会長〕谷村義雄 〔幹事〕新保國彦

〔会報委員長〕小杉眞史 〔今週の担当〕石井謙次

事務局／〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階 TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004 new-south@h9.dion.ne.jp
例会日・例会場／毎週金曜日 12時30分 東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111